

国道 197 号日吉・高研地区改良

国道 197 号は高知市を起点とし、大分市に至る四国西南部と九州中部を結ぶ唯一の幹線道路です。このうち日吉・高研地区は、高知県梼原町飯母から愛媛県日吉村（現鬼北町）上鍵山に至る 16.9km の区間です。この地区は地形条件が厳しく、また県境に位置することから、改良工事は権限代行区間として建設省直轄で行われました。

改良前の同区間は延長 26.2km で、平均幅員 3.5m、最小幅員 3.0mに加えて、小屈曲が多く、中でも高知・愛媛県境付近は標高 630mと高く、冬期は積雪や凍結により通行不能になることが頻繁にあり、幹線道路としての機能を果たせない状況にありました。このため、昭和 45 年に結成された「197 号（大洲・須崎間）愛媛県高知県連合整備促進期成同盟会」を中心に、地域住民や交通輸送機関から早急な改良の要望が出されていました。

建設省では、地域の要望を受けて、昭和 47 年度に日吉・高研地区の調査を開始しました。調査の結果、高研山トンネルを含めてトンネル 8ヶ所、橋梁 21ヶ所を含む延長 16.9km の改良工事が決まり、昭和 49 年度に事業化されました。工事は高研山トンネル及び愛媛県区間 10.6km は大洲工事事務所が担当し、高研山トンネルを除く高知県分 6.3km は中村工事事務所が担当しました。

このうち最大の難関である高研山トンネル（延長 1,562m）の工事は、起点側（梼原町）762mと終点側（日吉村）800mの 2 工区に分けて行われました。昭和 51 年 3 月に着工し、上部半断面先進掘削工法及び側壁導坑先進工法により掘進され、地山の押し出しや湧水などの問題に遭遇しましたが、対策が講じられて昭和 56 年 2 月に完成し、同年 8 月に供用されました。その他のトンネル、橋梁を含めて改良工事が進められ、昭和 58 年 11 月に日吉・高研地区 16.9km が全線開通しました。

日吉・高研地区改良工事により、区間延長は 26.2km から 16.9kmへ 9.3km 短縮され、所要時間は約 50 分から約 20 分へと約 30 分短縮されました。また、高研山トンネル坑口の標高も 495mと低くなり、冬期の交通障害が改善されました。このため、国道 197 号日吉・高研地区の改良は、予土県境地域の産業の発展、日常生活の向上に重要な役割を果しているだけでなく、高知市から大分市に至る国道 197 号の広域的な人や物の移動にも大きく貢献しています。

梼原町飯母には、日吉・高研地区の全線開通を祝って、梼原町と日吉村により国道 197 号開通記念碑が建立されています。

<参考文献：建設省四国地方建設局大洲工事事務所編「大洲工事五十年史」1994 年、建設省四国地方建設局中村工事事務所編「六十年のあゆみ」1991 年、日吉村誌編集委員会編「日吉村誌」1993 年、梼原町史編纂委員会編「梼原町史 2」1988 年など>

